

## 小学校全学年 給食の時間における活動指導案

日 時 令和4年9月8日(木)

場 所 神戸小学校 各教室

指導者 担当教諭 (T1)

1 題材名 地域で生産されているものをすすんで食べよう

2 題材について(題材設定の理由)

地域で生産したものを地域で消費するという意味をもつ「地産地消」は、安心安全で新鮮なものが食べられる。今日の給食の梨は、津市の校区内のものを使用していることを知らせ、地域でとれる産物を知り、すすんで食べようという意欲につなげたい。

3 本時の指導

(1) 目標

- ・給食には、津市産、三重県産のものが使われていることを知る。
- ・地域の産物を知り、すすんで食べようという意欲を持つ。

(2) 食育の視点

○生産者や自然の恵みに感謝し、残さず食べることができる。(感謝の心)

(3) 学習過程(5分)

	学習活動	指導上の留意点	資料等
導入 (1分)	1.今日の給食は、「津市産の梨」であることを知る。 2.	○梨は、津市自慢の農林水産物「津ぶっこ」であり、昔から栽培が盛んであることを知らせる。  ※津ぶっこ・・・梨、キャベツ、原木しいたけ、たけのこ、小女子、あさり、茶、いちご、ずいき、こんにゃく、自然薯、花しょうぶ、杉(13品目)	
展開 (3分)	2.校区で生産されている「伊藤さん」の梨づくりについて紹介する。	○生産者の思いを知り、地域のものが安心安全に作られていること、また、美味しい梨を作るために日々仕事をしていることを知らせる。	給食指導資料「津市産の梨をいただきます！」
まとめ (1分)	3.まとめをする。	○地域で生産したものを地域で消費するという意味をもつ「地産地消」は、安心安全で新鮮なものが食べられることを知らせる。 ・梨の他にも、地域でとれる産物を知り、すすんで食べようという意欲を持たせたい。	

(4) 評価

- ・給食には、津市産、三重県産のものを使われていることを知ることができたか。
- ・地域の産物を知り、すすんで食べようという意欲を持つことができたか。

#### 4 各学級から、児童の様子等

##### (1年1組)

・梨は好きな子が多く、子どもたちは喜んでいました。この学校に通っている人のお家の人が作ってくれているよ、神戸小に美味しいものを届けてもらったよということを伝えると、ますます食欲がわいているようでした。梨が苦手と言う子も、ひとかじり分だけ食べるようにしました。甘かったようで、全員がおいしく味わえました。

##### (2年1組)

・朝の会で献立が読み上げられたときにも、「やった」「なしや！」と声が上がっていました。4限目に資料を見せながら話すと、「〇〇くんのところだ」と反応していました。〇〇さんは、すごく笑顔でうなずいていました。給食中は、「おいしい」という声がたくさん聞こえました。〇〇さんに、「また、買いに行きたい」と話しかけている子どももいました。食べ終えた子どもから次々にお手紙を書いていた。おいしかったことを伝えたい様子で、休み時間に入ってから用紙をもらいに来る子どももいました。

##### (3年1組)

・タイムリーに、社会科で津ぶっこや地産地消について学習したところだったため、梨を身近に感じ、イメージしながら美味しくいただくことができました。どの子も、半田地区でとれたものであることやその新鮮さに感動し、甘さに舌づつみを打っていました！伊藤さんの思いにも触れ、大切に食べなきゃとつぶやいていました。ごちそうさまでした。

##### (4年1組)

・おかわりの分もたくさんいただきましたが、大人気であつという間になくなってしまいました。みんな「おいしい！」「香りがいい！」と大喜びの様子でした。

##### (5年1組)

・たくさん梨をいただき、おかわりがあったのに、それを上回る人数ジャンケンバトルをしました。梨を食べて、おいしくて感動で、「鳥肌がたった～！」と言う児童もいました。何人も「おいしかった～！」と言っていました。収穫が始まると、1日も休まずに収穫していることに私も含めて驚いている児童もたくさんいました。おいしい梨を本当にありがとうございました。

##### (6年1組)

・梨は、好きな児童が多く、この日、そして伊藤さんからの梨を楽しみにしている児童が多かった。瑞々しいや甘いなど、梨がもつおいしさを色々と表現していた。6年生ともなると、津市は梨の生産が盛んなこともよく知っていた。

##### (6年2組)

・給食の準備の段階から、「今日は梨や！」と嬉しそうに言っている子がいました。そこから普段購入する梨屋さんや、好きな梨の種類といった話題で盛り上がりました。(みんなとても詳しくかったです！伊藤さんの梨屋さんで買っているという子もいました！)あまりおかわりをしない子たちですが、梨は完売しました。「甘くて、おいしい」という子がたくさんいました！今年で最後なのかなとぼそとつぶやく子もいました。

#### 5 成果と今後の課題

津市は、梨の生産が盛んですが、市場での取引量が少なく、青果物納入業者（八百屋）から納品してもらうことが難しい状況にあります。実際に、今年度、他の学校に納入された梨の産地は、市内産（香良洲、久居）の学校もありましたが、県内産（伊賀市）、県外産（石川県、長野県）の学校もありました。

本校においては、令和元年度は県外産（新潟県産）の梨が納入されたことから、令和2年度からは、校区内で梨を生産し、直売所をされている伊藤果樹園さんをお願いしており、今年で3年目になります。伊藤さんには、地域の子どもたちにおいしい梨を食べてもらえればと承諾していただき、新鮮でおいしい、そしてとても安く、納入していただきました。子どもたちには、身近なところで地元食材を生産している伊藤さんのこと、農業は天候に左右される大変な仕事であることが紹介できたと思います。できれば、次年度も、地産地消の取り組みとして、継続できればと考えます。